

令和6年度全国学力・学習状況調査の山陽小野田市の結果について

山陽小野田市教育委員会学校教育課

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日

令和6年4月18日

3 調査対象

学年	学校数	児童生徒数
小学校第6学年	11校	児童 465名
中学校第3学年	6校	生徒 463名

4 調査内容

- (1) 教科に関する調査（小学校…国語、算数 中学校…国語、数学）
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
 - ア 児童生徒に対する調査（児童生徒質問）
【小学校：63項目 中学校：65項目】
 - イ 学校に関する調査（学校質問）
【小学校：76項目 中学校：80項目】

5 調査結果

(1) 教科に関する調査

○全体の結果（平均正答率）

ア 小学校の結果

- ・国語、算数ともに全国平均正答率を上回っている。

イ 中学校の結果

- ・国語は全国平均正答率を下回っているが、全国とほぼ同程度である。
- ・数学は全国平均正答率をやや上回っているが、全国とほぼ同程度である。

望ましい状況	課題の見られる状況
【小中ともに】 ○国語、算数、数学ともに「知識・技能」は全国平均正答率とほぼ同程度かそれを上回った。 【小学校】 ○国語「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」において、全国平均正答率を上回った。 ○算数「数と計算」、「データの活用」の領域において、全国平均正答率を上回った。 【中学校】 ○校数学「数と式」、「データの活用」の領域において、全国平均正答率を上回った。	【小中ともに】 ●国語「読むこと」が他の領域とより平均正答率が低い。 ●算数・数学では、抽象的な内容（時間や速さ、関数、図形など）において、根拠に基づいて考察・判断することに課題がある。 【中学校】 ●国語「話すこと・聞くこと」において全国平均正答率を下回った。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

望ましい状況	課題の見られる状況
【小中ともに】 ○将来の夢や目標をもっている。 ○人の役に立つ人間になりたい。 ○地域や社会をよくするために何かしてみたい。 ○P C ・ タブレットなど I C T 機器を活用することで ・ 楽しみながら学習することができる。 ・ 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。 ・ 友達と協力しながら学習を進めることができる。 【小学校】 ○先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。 ○普段 3 0 分以上勉強する児童の割合が高い。 【中学校】 ○学校に行くのが楽しい。 ○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	【小中ともに】 ●テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）の時間が 1 時間以上の割合が高い。 【小学校】 ●毎朝、同じくらいの時刻に起きている。 【中学校】 ●S N S や動画視聴の時間が 1 時間以上の割合が全国や県に比べて高い。 ●携帯電話・スマートフォンやコンピューターは持っているが、家の人との約束がない割合が高い。

6 今回の結果を踏まえた重点的な取組

継続して行う取組	今後に向けた対策
○「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 ・「見通し・実行・振り返り」のサイクルを通して、児童生徒の主体性や当事者意識の醸成を図る。 ○「個別最適な学び」の学習指導の改善・充実 ・児童生徒の習熟度に応じた学習や、1人1台端末を活用した単元・授業づくりを推進する。 ○学校全体における組織的な取組の推進 ・モジュール学習の内容の充実を図る。	●生活改善 ・医療やICTなどの専門家や学校運営協議会、PTA、家庭と連携し、健康に関する基礎的な知識を身に付けさせ、規則正しい生活習慣を確立する。